

平成28年度（第39期）事業報告書

当社、平成28年度第39期の事業概要について、ご報告申し上げます。

今期の我が国経済は、長引いたデフレ経済脱却を目指して日銀による異次元のマイナス金利政策が続いておりますが「2020年開催の東京オリンピック」の需要効果と「2025年の大阪万博」の誘致活動に向けた経済浮揚行動効果が大きいと期待されております。

こうした中、ここ中核市高槻は賑わいと“活力あるまちづくり”をめざして、平成21年12月に大阪府では初めて国（内閣府）の認定を受けた「高槻市中心市街地活性化基本計画」に基づき官民一体となって中心市街地の活性化事業と都市機能再生事業化に取り組んで参りました。その成果として、JR高槻駅北東地区には大学、医療機関、高層住宅や商業施設を有する「MUSEたかつき」が形成され、新たな賑わいづくりの活動が活発化しております。次なる、新たな「高槻市中心市街地活性化基本計画」がスタートして将来にわたって中心市街地の活力を維持、増進する高槻市の玄関口にふさわしい“活力あるまちづくり”を目的とする拠点の形成・創出が期待されております。

高槻市の玄関口であるJR高槻駅は1日12万人超とJR西日本管内でも屈指の乗降客がありますが、平成28年3月より狭隘な駅構内の安全安心対策として新快速・特急専用ホームを上下線に別途新設するとともに安全面でいち早く転落防止の昇降式ホーム柵を設置しており、また従来の西口改札口とは別に新設各ホームに自動化乗降口が稼働して通勤・通学者の利便性が向上しております。平成28年3月から関空特急「はるか」、平成29年3月4日から北陸線特急「サンダーバード」の一部が停車して観光客・高槻市民の利便性が向上しております。

高槻市内初の新名神高速道路インターチェンジは平成30年3月の開通に向けた周辺道路が整備されており、中心市街地と新名神・名神高速道路を結ぶ新たな交通網整備は、商・工・流通事業者の拡充策として期待されております。文化振興策として京大農場跡地は都市防災機能と共に市民グループ活動として「市民とともに育てつづける安満遺跡公園」が始動しており、活力ある中核市高槻として「みらい創生」をめざした、次なる「高槻市中心市街地活性化」施策への期待が膨らんでおります。

当社は、昭和53年5月4日に高槻市唯一の第三セクター会社として国鉄高槻駅南再開発事業の中核会社として設立され、平成28年度には創立39年を迎えることができました。

主要業務であるJR高槻駅前広場の管理受託業務、再開発ビルのグリーンプラザたかつき1号館、3号館のビル管理業務、JR高槻駅南地区周辺地域の駐輪施設事業、損害保険会社6社の代理店業務及び高槻都市開発グループとして指定管理者施設「前島熱利用センター」業務を長年に亘り地道に堅実に積み上げ、信頼と信用を培って参りました。

平成21年12月からは、安全と安心のまちづくりの高槻市中心市街地活性化協議会事務局として中心市街地都市機能の充実と増進にむけた活動と次なる、新たな「高槻市中心市街地基本計画」に向けた地域社会の貢献を図っております。平成28年5月からJR高槻駅南地区のグリーンプラザたかつきの1号館、大丸松坂屋百貨店（2号館）、3号館の再々開発事業合同勉強会が発足して高槻市都市創造部による3回に亘る再々開発合同事業勉強会を開催しました。

平成28年11月17日にはより、具体的な再々開発推進検討策として「JR高槻駅南地区の今後のあり方に関する検討会」が発足して、同検討会会長に金田忠行高槻商工会議所会頭が就任されました。

今後の検討会の発展と将来に向けた再々開発事業推進の要として、当社は引き続き検討会事務局としてPR活動に邁進して参ります。

今後は役職員一同、長年培ってきた信頼と信用の営業基盤の拡充を図り着実に一步一步、より強固な収益基盤を構築できるよう社業に専念し精進を重ね、地域社会に貢献して参ります。

以上